

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和8年4月14日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

学校名 品川区立中延小学校

品川区立中延小学校

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

【国語】

1 定着状況についての概要

どの学年も基礎学力が目標値を上回っている。活用も目標値を上回っている傾向にある。

2 学年ごとの分析

2年	具体的な課題 原因として考えられること	・問題や問題文の正しい読み取りができていない。 ・大事な言葉を落とさずに、読み取ることがまだ定着していない。
	課題解決のための方策	・大事な言葉にアンダーラインを引かせる。
3年	具体的な課題 原因として考えられること	・領域「書くこと」に課題がある。 ・文章を推敲していくことについて理解ができていない。
	課題解決のための方策	・下書き、推敲、清書の手順を踏んで学習を進める。文章を読み直したり、さらに詳しくしたりする機会を設ける。
4年	具体的な課題 原因として考えられること	・領域「書くこと」、特に条件に合わせて書くことに課題がある。経験がない。
	課題解決のための方策	・100 ます作文に取り組む。慣れてきたら、条件に合わせて書く練習をしていく。
5年	具体的な課題 原因として考えられること	・読み切る・読み取る力がない。 ・語彙が少ない、複数の資料を組合せて総合的に読み取ることが難しい。
	課題解決のための方策	・新出漢字では意味や用法を丁寧に扱う。段落の意味やつながりとなる言葉を意識的にくり返し扱い、段落同士のつながりから資料へ発展させる。図書館司書と連携して、読書に親しむ時間を増やす。
6年	具体的な課題 原因として考えられること	・目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にすることが難しい。問題の意味の理解、情報の整理ができていない。
	課題解決のための方策	・委員会やクラブなど、状況に合わせて、相手意識をもって伝える機会を活用して、伝えることを明確にする練習をする。 ・相手のことを汲み取る練習を、日常的に行う。 ・教師との対話で考えを引き出す。

品川区立中延小学校

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組
【社会】

1 定着状況についての概要

4年生は、今年度は目標値と比較し、基礎と活用は上回る結果となった。また、正答率は全国平均より上回った。区平均と比較すると、基礎平均を下回ったが、活用においては上回る結果となった。5年生は、今年度は目標値と比較し、基礎と活用は上回る結果となった。また、正答率は全国平均より上回った。しかし、区平均と比較すると基礎と活用が下回る結果となった。6年生は、目標値を下回る結果となった。また、正答率は全国平均を上回る結果となった。観点別の定着では、基礎と活用が目標値を下回る結果となった。区平均と比較しても下回る結果となった。

2 学年ごとの分析

4年	具体的な課題 原因として考えられること	・ 大多数の児童が概ね基礎基本が獲得できている一方で、基礎基本が定着しきれていない児童がいる。また、3つの資料を複合的に見取り、その結果から分かることを考える機会が少なかったり、文章を正確に読まず、正しく思える解答をそのまま記述してしまったりすることが原因であると考え。
	課題解決のための方策	【問題解決型の学習展開の徹底と実物教材】 ・ 学力テストの問題の流れの多くが問題解決型の学習展開となっている。そのため、課題の設定後、見学やゲストティーチャーの活用、実物に触れる体験を通して学んだことを整理分析する学習をどの単元にも位置付ける。また、授業の合間を使って地図記号クイズや23区の歌などを活用して知識の定着を図る。 【資料読み取りの充実】 ・ 2学期までに再度資料の確実な読み取りの方法を獲得させ、どの単元でも児童が切実性をもって学習に取り組める資料の提示方法を工夫して行うようにする。また、複数の資料を同時に見ながら、何が分かるのかを考えさせる場面を設ける。
5年	具体的な課題 原因として考えられること	・ 文章を正確に読まず、正しく思える解答をそのまま記述してしまったり社会的用語を理解しておらず答えが文章内に書いてあっても記述していなかったりすることが原因であると考え。
	課題解決のための方策	【複数の資料活用】 ・ 資料を読み取る際に、写真資料だけでなく文章資料と一緒に考えさせる活動を設定する。そうすることで、写真資料からは判断できない根拠を文章から読み取らなければならない意識をもつことができる。2学期は、2つ。3学期は3つといったように資料を増やしていくとよい。 【社会科の用語獲得】 ・ 各単元学習において、知識として学んだ用語は必ず使うように声を掛ける。具体的には、発言・振り返り・日常生活で意識して使うようにする。今回の「分別・3R」のような用語は様々な場面で活用することができるのでその都度、用語を活用しながら言葉の重みも理解できるようにする。
6年	具体的な課題 原因として考えられること	・ 「世界の国土」や「日本の国土」における名称や気候などの社会的用語の獲得（漢字で書ける）ができてない。また、学習後の「まとめ」「つなぐ」の学習が定着していない。
	課題解決のための方策	【国土の位置】 ・ 授業の5分間を利用して「国家や国旗」など、年間を通した復習時間を設け、定着を図る。 【用語の獲得】 ・ 各単元学習において、知識として学んだ用語は必ず使うように声を掛ける。具体的には、発言・振り返り・日常生活で意識して使うようにする。今回の「代掻き」のような用語は稲作体験を並列して学習していることから、今自分たちが行っている学習は何なのかについて、継続して理解する必要がある。

品川区立中延小学校

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

【算数】

1 定着状況についての概要

目標値と比較すると全学年において上回る結果となった。一方で、区の教科全体平均正答率と比較すると5年生以外の学年は下回っている。

5、6年生の記述解答形式の問題は目標値を大きく下回っている。

2 学年ごとの分析

2年	具体的な課題 原因として考えられること	- 問題や問題文の正しい読み取りができていない。 ←最後まで集中して、大事なことを読み取ることが難しい。 - 自分の視点を書いてある通りに置き換えることができていない。 ←読み取ったことを、自分の視点から考えて答えている。 - 最後まで問題に取り組めていない。 ←問題の形式に慣れていない。
	課題解決のための方策	【言葉・問題の理解】 - 出てくる言葉の意味を確認する時間を、授業の中で設ける。 - 大事な言葉にアンダーラインを引かせる。 - 問題文を読み、聞かれていることを確認する。 【視点のおき方】 - 登場人物から見た視点で考える機会を増やす。
3年	具体的な課題 原因として考えられること	- 計算のきまりに合わせて計算できていない。←（ ）内を先に計算するなど、計算のきまりが定着していない。 - かさを表す単位に着目していない。←かさの計算はできるが、単位に着目して答えを導き出すことができていない。
	課題解決のための方策	【数と計算】 「たし算とひき算」は、昼モジュールや宿題で反復練習を行う。また、授業中には、やり直しをする時間を設け、自分の間違いに気付けるように練習をする。 【測定】 「長さ・かさ」は、実際に長さを測ったり、水を入れたりする体験活動を行うことで、量感覚を育む。また、その際に道具を使うことで使い方を確認し、何回も使うことで使い方の定着を徹底する。
4年	具体的な課題 原因として考えられること	3桁＋3桁の計算が正しくできない。←繰り上がりや繰り下がり計算の仕方が身に付いていない。 - 道のりの計算ができない。←距離と道のりの意味が正しく理解していない。問題を読み取り正しい情報を用いて解答を求めている。 - 資料から必要な情報を読み取れていない。←文章から情報を抜き出すこと、資料にある内容を算数科の学習と結び付けて考えることが難しい。
	課題解決のための方策	【計算練習の徹底】 - 繰り上がり・繰り下がりのあるたし算やひき算を昼モジュールや宿題で反復して練習させる。 【用語の確認】 - 宿題プリントを活用して、「距離」や「道のり」の言葉の意味を確実に理解させていく。 【資料の読み取り方】 - 資料の読み取り方を児童に指導し、各単元が終わるごとに発展的な学習として、複合的な資料の読み取りの問題に取り組ませる。
5年	具体的な課題 原因として考えられること	- おおよその面積を求めることができない。←10 cm^2や100 cm^2、cm^2とm^2の広さの違いが身に付いていない。 - データ読み取ことはできるが、なぜそのデータを用いたのか理由の説明ができない。←問題を最後まで読み取っていない。
	課題解決のための方策	【論理的考える】 - 実際の数値を入れて考えたり、原因と結果などの順序を意識したりして、問題への向き合い方を授業で意識させていく。 【データの活用】 - 資料を読み取ること、説明の文章を最後まで読むことを指導し、正答体験をさせる。
6年	具体的な課題 原因として考えられること	- 分数と小数の大小比較や小数の計算ができていない。←小数を分数で表すことが苦手。小数のかけ算で、計算後の小数点を打つ位置が正しく定着していない。 - 最小公倍数を活用した問題ができていない。←問題を理解できていない。最小公倍数・最大公約数を用いて解決できる問題場面が定着していない。
	課題解決のための方策	【小数と分数】 - 大小比較について、数直線や同じ大きさの図を用いて量の関係を確認する活動を取り入れる。 - 小数のかけ算・わり算は、朝学習やモジュールの時間、授業の導入で短時間の反復練習を行い、計算の手順を定着させる。 【整数のなかま分け】 - 最小公倍数・最大公約数を求める文章問題では、何を求める問題かを整理し、図や表に表して考える習慣を身に付けさせる。

品川区立中延小学校

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

【理科】

1 定着状況についての概要

4年生は、目標値を目指したが、目標値を上回る結果となった。カテゴリー別に見ると、基礎は、目標値を下回ったが、活用は上回る結果となった。5年生は、記述式の問題で目標値を目指したが、目標値を上回る結果となった。6年生は、短答式の問題での目標値を目指したが、下回る結果となった。

2 学年ごとの分析

4年	具体的な課題 原因として考えられること	・特に、「身近な自然の観察」「植物の育ち方」「風やゴムのはたらき」「物の重さ」に課題が見られる。 ・年度当初に学習した内容を忘れている。また、観察・実験で得た結果と用語や基本的な性質を結び付けて振り返る機会が少なく、基礎的な知識の定着が十分でないことが原因と考える。
	課題解決のための方策	【基礎学力の定着】 ・宿題やモジュールの時間で幅広く復習を行う。特に、道具の使い方などは何回も使用することで、定着を図る。 【情報の読み取り】 ・絵、写真、表など複数の情報から分かることを考える場面を設ける。
5年	具体的な課題 原因として考えられること	・特に、「動物のからだのつくりと運動」「水のすがた」「自然の中の水」「物のあたたまり方」に課題が見られる。 ・学習内容を実生活の現象に当てはめて考えることに課題がある。また、理科の用語を十分に使い慣れていないことが原因と考える。
	課題解決のための方策	【活用する力】 ・身近な現象や児童の経験を取り上げ、学習内容が生活の中でどのように使われているかを考える場面を設ける。 【用語と記述】 ・各単元で重要な理科用語を明確にし、発言や振り返りで繰り返し使わせる。
6年	具体的な課題 原因として考えられること	・「魚の誕生」「ふりこのきまり」「けんび鏡の使い方」「流れる水のはたらき」の正答率が特に低い。物や器具の部分の名称と働き、現象の仕組みを結び付けて理解することや、実験で変える条件と変えない条件を整理し、結果の変化を捉えることに課題がある。観察・実験後に用語や条件、結果を関連付けて説明する機会が十分でなかったことが原因と考える。
	課題解決のための方策	【名称と働きの理解】 ・写真や動画、実物を活用し、名称と働きを結び付けて確認する。 【実験の条件と結果】 ・実験の変える条件と変えない条件、結果を知識・経験を基に表から読み取り、自分の言葉でまとめ、振り返る学習活動を行う。 【継続的な振り返り】 ・単元終了後も授業の導入やモジュールで、図や写真を使った短い復習を継続的に行う。

品川区立中延小学校

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

【英語】

1 定着状況についての概要

6年生は、教科の正答率が目標値を上回った。基礎と活用は目標値を上回り、達成率も区平均を上回った。全体として学習内容は良好に定着している。一方、全国・区平均との比較では、日常会話や会話全体を聞いて理解すること、アルファベットを正しく書くことに課題が見られる。

2 学年ごとの分析

6 年	具体的な課題 原因として考えられること	・領域別、内容別の正答率を見ると、「日常会話の理解（聞く）」、「会話全体の理解（聞く）」や「アルファベットの書き（小文字）」が区の正答率よりも下回っている。アルファベットの聞き取りはできるが、英単語、会話文となると分からなくなることや、アルファベットの大文字は書けているが、小文字の形や四線上での位置を覚えていないことが課題である。
	課題解決のための方策	【聞くこと】 ・授業の導入で、既習表現を使った短いやり取りを継続して聞かせる。聞く前に「誰が」「何を」「どうするか」などの視点を示し、会話全体から必要な情報を捉えられるようにする。 ・一度目は大意、二度目は詳しい内容を聞くなど、目的を変えて繰り返し聞く活動を取り入れる。 【アルファベットの書き】 ・授業の終末やモジュールで、アルファベットや既習単語を書く短時間の活動を継続する。四線プリントを用いて、大文字・小文字の形や位置を自分で確認させる。また、四線体操に取り組む際、アルファベットを思い出しながら取り組むことで、より丁寧にアルファベットの位置取りを学習できるようにする。